

2050年に展示会の木工廃棄量をゼロにする

日本の展示会業界において展示会ブースは、「木工によるブース」と、使いまわしを前提とした「システムブース」の2種に大別されます。木工ブースは、仕上がりの綺麗さとデザインの自由度から多く扱われている反面、展示会終了後には、その大半を廃棄しなければいけないという環境面の課題がありました。では、木材の廃棄量を軽減するには現実的にはどうすればいいのでしょうか。今回我々は、木工ブースの製作体制はほぼそのままに、基本材料のみを「入れ替える」という手法を試してみることにしました。本来木材を使うところを、「再生板紙」を用いることで、これまでの、職人をはじめ多くの関係者の現況を変化させることなく構法を移行することが可能になる手法です。現在この「再生板紙構法」はテスト段階ですが、試験的に製作してみることで様々な課題が見えてきました。しかし、それらは需要が増えてくれば解決できそうなことばかりです。今回 JAPANSHOP 会場に設置することで社会に広がることを期待しています。

01 展示会木工ブースの大半が展示会終了後に廃棄される

展示会后、大量に廃棄される木材



02 解決の為に施策/材料を「置き換える」

製作体制はそのままに、材料を「置き換える」

03 「置き換え」のメリット

デザインの自由度は変化なし

04 「置き換え」のメリット

現在の生産体制が極力保てる

PROJECT 2050

EXHIBITION-DESIGN

JAPAN SHOP 2024
SUPER PENGUIN × NIPPON KAKO-KIZAI

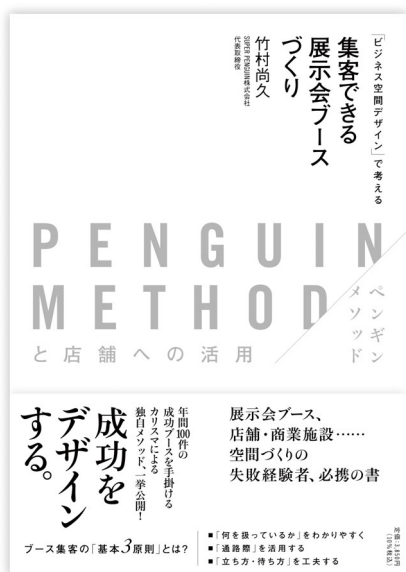
PENGUIN METHOD とは？

来場者が寄り付きやすい標準的「2 小間」

展示会において 1 小間・2 小間のブースは、「このようにすれば来場者が寄ってきやすい」という型のようなものがあります。今回のブースにはその「標準要素」を入れ込んでデザインしています。通路際に寄せたメイン展示台、照明の位置と照らしている場所、ディテールなど、それぞれの要素を是非ご覧ください。これに加えて、キャッチコピーと待機方法を工夫すれば、ある程度の集客は可能になります。



- 01 「何のブースなのか」を掲示する
- 02 「通路際」に展示台を寄せる
- 03 照明取付用の梁。壁を照らす
- 04 ブース外からでも認識できる壁面
- 05 移動可能な商談用カウンター
- 06 全面開放できる展示台下収納
- 07 ワイヤで留めるパンフラック



著書「集客できる展示会ブースづくり」

EXHIBITION DESIGNER

竹村 尚久

SUPER PENGUIN 株式会社

代表取締役

展示会デザイナー

展示会デザインに特化した空間デザイン事務所、スーパーペンギンの代表。自身による設計と会場での観察で積上げた独自のブースデザインの手法は、現在様々な展示会、全国の自治体にて講演を行っている。著書に「集客できる展示会ブースづくり」。現在発刊中。

PENGUIN METHOD とは？ 展示会において、出展結果を出すためのブースデザイン手法。展示会において従来から言われている「目立つようにして集客する」という手法を「オブジェ思考」と呼ぶのに対して、PENGUIN METHOD は、「来場者の心理」を基軸にした「空間デザイン思考」によって構成される。現在、この手法は様々な展示会の出展社説明会や全国の自治体に拡散している。

著書「集客できる展示会ブースづくり」
PHP エディターズ・グループ

SUPER PENGUIN × NIPPON KAKO-KIZAI

SUPER PENGUIN 株式会社 〒141-0021 東京都品川区上大崎 3-10-50 SEED 花房山 405 www.superpenguin.jp

